

# 米国財務会計基準審議会（FASB） との第 16 回定期協議の概要

ASBJ 専門研究員 みやばやし あきひろ 宮林 明弘

## 1. はじめに

2014年3月31日及び4月1日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第16回定期協議を米国ノーウォークで開催した。ASBJか

らは西川前委員長<sup>1</sup>、小野委員長<sup>2</sup>、小賀坂副委員長、関口委員の他スタッフが参加し、FASBからは Russell G. Golden 議長、Thomas J. Linsmeier 理事、Daryl E. Buck 理事及び Susan M. Cospers テクニカル・ディレクターに加え、担当スタッフが参加した。

## 2. 全体のスケジュール

日 時	議 題	主な内容
31日 午前	ASBJ、FASB の各アップデート	
	概念フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務業績計算書での表示の改訂モデル：測定に対して生じる可能性のある含意</li> <li>負債と資本性金融商品の区別</li> </ul>
31日 午後	概念フレームワーク（続き）	<ul style="list-style-type: none"> <li>持分法会計</li> <li>会計基準における要求事項の濫用防止</li> </ul>
	開示フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来志向の情報</li> <li>期中財務諸表と年次財務諸表の双方で提供される情報</li> </ul>
	料金規制活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>規制資産・負債と概念フレームワークの資産・負債の定義</li> <li>財務諸表における規制資産・負債の認識</li> <li>料金規制活動と他の類似の契約の相違</li> </ul>
	金融商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>分類及び測定</li> </ul>

1 西川郁生氏は2014年3月31日までASBJの委員長であり、同日付で委員長を退任した。

2 小野行雄氏は2014年3月31日までASBJの委員長代行であり、2014年4月1日付で委員長に就任した。

1日 午前		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 減損</li> </ul>
	リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 借手の会計処理モデル</li> <li>• 借手の少額リース</li> <li>• 貸手の会計処理モデル</li> </ul>

### 3. 議事概要

#### (1) ASBJ・FASB アップデート

ASBJ 側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- 我が国における国際財務報告基準（IFRS）の任意適用会社数に関するアップデート
- 我が国における IFRS のエンドースメント作業の進捗状況と検討している主な論点
- ASBJ と FASB の関係、及び他国の基準設定主体との関係

FASB 側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- FASB が取り組んでいる全体目標
  - ✓ 効率性と有効性の改善
  - ✓ コストと複雑性の低減
  - ✓ 目的適合性の増大
  - ✓ コミュニケーションの改善
- FASB のアジェンダ設定
- 国際的な会計基準の共通化に関する今後の道筋について
- のれんの事後測定に関するプロジェクト（公開企業向け）について

#### (2) 概念フレームワーク

主に次の項目の論点について議論を行った。

- ① 財務業績計算書での表示の改訂モデル：測定に対して生じる可能性のある含意
- ② 負債と資本性金融商品の区別
- ③ 持分法会計
- ④ 会計基準における要求事項の濫用防止

#### ① 財務業績計算書での表示の改訂モデル：測定に対して生じる可能性のある含意

国際会計基準審議会（IASB）の諮問機関の1つである会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）の2014年3月4日の会議に、FASB の Thomas J. Linsmeier 理事からペーパー「財務業績計算書での表示の改訂モデル：測定に対して生じる可能性のある含意」が提出された。

本セッションでは、主に次の項目に関して当該ペーパーに対する ASBJ スタッフの分析及び暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 2つの測定基礎の使用
- 純資産の情報価値
- 測定基礎の選択
- 割引率の再測定
- キャッシュ・フローの再測定

#### ② 負債と資本性金融商品の区別

本セッションでは、主に次の項目について ASBJ の一部の委員とスタッフの分析及び暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 負債と資本の区別についての考え方
- 個別論点に関する検討

#### ③ 持分法会計

本セッションでは、主に次の項目について、ASBJ の一部の委員とスタッフの分析及び暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 持分法会計の性質
- 持分法会計の使用
- 持分法会計の適用範囲

- 個別論点に関する検討
- 概念フレームワークへの影響

#### ④ 会計基準における要求事項の濫用防止

本セッションでは、会計基準の濫用による影響を防止又は抑制することを目的とした濫用防止の規定を設けるべきかどうか、設ける場合はどのように設けるかについて、主に以下の点から ASBJ スタッフの分析と暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 会計基準の濫用に対する考え得る防止策
- 概念フレームワークにおける質的特性との関係
- 概念フレームワークに濫用防止に関する内容を含めるべきか

#### (3) 開示フレームワーク

2014年3月4日に FASB は、財務諸表への注記に関する開示要求事項を評価するプロセスを改善することを目的にした、財務会計概念書「財務報告のための概念フレームワーク：第8章『財務諸表に対する注記』」の公開草案を公表した。本公開草案は、FASB が実施している財務諸表の注記の効率性を改善するより広いプロジェクトの結果の一部であり、具体的には財務諸表への注記に含まれるべき目的適合性のある情報を特定するに当たって FASB が検討するプロセスを扱っている。

本セッションでは、主に次の点に関して本公開草案に対する ASBJ スタッフの暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 将来志向の情報
- 期中財務諸表と年次財務諸表の双方で提供される情報

#### (4) 料金規制事業

米国会計基準には料金規制に関する特定のガイダンスが存在するが、日本基準や IFRS には

それが存在しない。IASB は 2012 年 12 月に、料金規制事業に関するリサーチ・プロジェクトを進めることを決定し、当該プロジェクトの一環として料金規制事業に関する様々な論点を検討するためのディスカッション・ペーパーの公表を予定している。

本セッションでは、主に次の論点について、ASBJ の一部の委員とスタッフの分析及び暫定的な見解が説明され、意見交換が行われた。

- 規制資産・負債は概念フレームワークの資産・負債の定義を満たすか
- 規制資産・負債と概念フレームワークの資産・負債の認識規準を満たすか
- 料金規制活動と他の類似の契約の相違に関する追加的な検討

#### (5) 金融商品

FASB は、2012 年 12 月に金融資産の減損に関する公開草案「金融商品—信用損失 (Subtopic 825-15)」を、また 2013 年 2 月に金融商品の分類測定に関する公開草案「金融商品 (全般) (Subtopic 825-10) : 金融資産及び金融負債の認識及び測定」を公表し、これらの公開草案に対するフィードバックを基礎としたその後の再審議を経て、最終基準を 2014 年の下期に公表する予定である。

本セッションでは FASB のスタッフにより、減損と分類及び測定のそれぞれのプロジェクトに関する現時点までの再審議における議論及び暫定決定の状況などについて説明がなされ、その後意見交換が行われた。

#### (6) リース

2013 年 5 月に FASB と IASB は共同で改訂公開草案「リース」(2013 年 ED) を公表し、それに対して 640 通を超えるコメント・レターを受領した。それらのフィードバックを踏まえ、2014 年 1 月及び 3 月の FASB と IASB の

共同会議において、2013年EDに対する再審議が実施された。

本セッションでは、2014年1月及び3月の共同会議にて審議及び暫定決定された項目の中から、主に次の事項について意見交換などが行われた。

- 借手の会計処理モデル
- 借手の少額リース
- 貸手の会計処理モデル

#### 4. 次回の予定

次回は2014年下期に東京で開催することが予定されている。